

教職実践演習	2年 後期			演習2単位	担当教員名	大平雅弘・齋藤亮一
	卒選	幼必	保必			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ① テーマ：教科・教職の各科目の履修状況を踏まえ、教員としての必要な知識技能を実践的に習得する。 ② 目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 幼稚園教諭・保育士の意義や役割、職務内容、使命感、責任感、教育的愛情に関する事項               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 保育への使命感や情熱をもち、子どもの成長を第一に考えて適切に行動できる。</li> <li>② 高い倫理観と規範意識、強い意志をもって職責を果たすことができる。</li> </ul> </li> <li>イ 社会性や対人間関係能力に関する事項               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 保育専門職としての職責や義務の自覚に基づき、他の教職員と協力して職務を果たすことができる。</li> <li>② 保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。</li> </ul> </li> <li>ウ 子ども理解や学級経営に関する事項               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 公平かつ受容的な態度で子どもに接し、発達や状況に応じた適切な指導ができる。</li> <li>② 子どもとの間に信頼関係を築き、規律ある学級経営ができる。</li> </ul> </li> <li>エ 保育内容の指導力に関する事項               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 保育内容に関する知識や技能、保育を行う上での基本的な表現力を身に付けている。</li> <li>② 子どもの反応や状況に応じ、保育計画や指導方法などを工夫することができる。</li> </ul> </li> </ul>						
<b>授業の概要</b> これまでの学びの振り返りを行い、教科・教職科目の知識技能などを確認する。その中で、保育者や教職として必要な資質の課題について、グループ討議を行う。各自の課題テーマに従って課題解決を行うとともに関係する教育機関と連携し実践的に調査、分析・考察を行う。						

#### 授業計画

コマ	項目	内容
1	オリエンテーション、履修カルテの作成、各自の課題(テーマ)の設定	科目の目標と計画、担当者などについて理解する。履修カルテにより履修状況を確認する。保育に関する各自の課題について検討し、テーマを設定する。
2～3	公開研究会参加	大崎公立幼稚園研究協議会の公開研究会への参加
4	保育専門職の基本	保育専門職に必要な資質能力の土台となる使命感・責任感・愛情及び職務についての講義を受ける。
5	乳幼児理解	乳幼児理解の必要性や方法などについて講義を受け、事例についての討論と発表を行う。
6	幼稚園の学級経営①	現職幼稚園教諭から学級経営等について講義を受ける。
7	幼稚園の学級経営②	上記講義をもとに討議や発表を通して理解を深める。
8	小学校との連携①:生活科	幼小連携での保育活動や小学校教諭の指導等を理解する。
9	小学校との連携②:生活科	小学校1年生生活科の授業に参加し、保育活動のつながり等を探る。
10	運動機能の発達と身体表現	乳幼児の運動機能の発達にあわせた身体表現について理解を深める。
11	各自の課題に沿った調査研究	各自、設定した課題に沿って調査研究を深める。
12	保育現場の音楽活動の理解	音楽専門教員の指導により、音楽分野の保育活動を経験し理解を深める。
13	養護に関する現状の理解	社会福祉施設職員から養護に関する現状と課題等の講義を受ける。
14	各自の課題のまとめ	各自の課題に基づき調査研究したものをレポートにまとめる。
15	学びの振り返り 履修カルテ等のまとめ	保育者として必要な知識技能をどの程度習得できたか、自らの学びを振り返りまとめる。各自の履修カルテで自己評価を行う。
定期試験	特にしない。	
テキスト	特にない。	
参考図書	「教育実習」(ミネルヴァ書房) 「教育・保育・施設実習」(建帛社) 参考資料:各種指導案集(図書館)	
教員の評価方法	出席状況(40%)、演習活動の観察評価(30%)、各種作成物の内容及び提出状況(30%)を総合的に評価する。	
準備学習等履修上の留意点	学外での演習活動及び外部講師による講話については、目的・テーマ等について事前に把握して臨む。また、学習活動後に感想等をまとめたり、自己評価をしたりする。	